

平成17年度 課題別研究
「肢体不自由のある子どもの指導と支援に関する研究—自立活動の手引書の作成—」
報告書

肢体不自由のある子どもの

自立活動の手引

肢体不自由のある子どもの自立活動の手引

平成18年3月

独立行政法人 国立特殊教育総合研究所



平成18年3月

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所

はじめに

この報告書は国立特殊教育総合研究所の平成17年度課題別研究「肢体不自由のある子どもの指導と支援に関する研究－自立活動の手引書の作成－」の成果をまとめたものです。

平成17年12月8日に、中央教育審議会から「特別支援教育を推進するための制度の在り方について（答申）」が出されました。この答申は、盲・聾・養護学校制度の見直し、小・中学校の制度的見直し、教員免許制度の見直しなどを提言しています。これにより、特殊教育から特別支援教育へ向けた様々な取組を、全国各地で展開していくことが期待されています。

一方、平成11年に改訂された学習指導要領により、盲・聾・養護学校において固有の指導領域である「養護・訓練」が「自立活動」に名称が変更されました。この変更の理由の一つに、子どもの自立を目指した主体的な活動を一層明確にすることが上げられています。

国立特殊教育総合研究所では、「養護・訓練」が「自立活動」に名称が変更されて以来、学校現場での取組がどのように展開されたのか、自立活動の指導に関する教育現場の状況について実態を明らかにすることを目的に、プロジェクト研究「盲・聾・養護学校における新学習指導要領のもとで教育活動に関する実際的な研究－自立活動を中心に－」（平成13年から15年度）に取り組み、全国調査を実施しました。本課題別研究では、プロジェクト研究で出された自立活動に関する課題を整理することによって、学校現場のニーズに応えることが出来るのではないかと考え、それらの課題を整理し、自立活動に関するQ&Aを作成しました。

本報告書の内容は4章で構成されています。第Ⅰ章は自立活動に関する概論編、第Ⅱ章は学校現場の課題に応えるQ&A編、第Ⅲ章は肢体不自由養護学校の取組の学校事例編、第Ⅳ章は自立活動の現状と今後、としました。

本報告書が肢体不自由のある子どもの自立活動の指導はもとより、障害のある子どもの指導の改善に資することが出来れば幸いです。

本報告書の刊行にあたり研究協力者、研究協力機関をはじめ関係機関より多くのご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。

研究代表者 當島茂登（教育支援研究部）

目次

はじめに

第Ⅰ章 概論編	1
1. 自立活動とは	2
(1) 自立活動の必要性と意義	
(2) 自立活動の目標	
(3) 自立活動の内容	
2. 自立活動の指導の進め方	5
(1) 自立活動の授業の展開	
(2) 実態把握	
(3) 目標設定	
(4) 目標達成に必要な項目の選定と内容の設定	
(5) 指導上の留意点	
(6) 評価	
(7) 指導時間と指導形態	
3. 個別の指導計画の作成	7
(1) 盲・聾・養護学校の学習指導要領の規定	
(2) 個別の指導計画作成の手順	
4. 障害の多様化に対応した肢体不自由養護学校の教育課程	8
5. 現行の学習指導要領と教育課程の編成	9
(1) 教育目標	
(2) 教育課程の編成	
第Ⅱ章 Q&A編	15
1. 基本的な考え方	
2. 自立活動の組織	
3. 自立活動の専門性	
4. 共通理解の仕方	
5. 個別の指導計画	
6. 指導の一貫性	
7. 自立活動の評価	
8. 自立活動における連携	

目 次

第Ⅲ章 学校事例編	61
1. 個別の指導計画の活用とサポートブック	62
2. 自立活動を主とした教育課程 —自立活動の指導内容の相互関連を図る—	66
3. 運動障害と知的障害・視覚障害のある子どもの自立活動 —目標設定四つの視点, 方法計画三つの段階—	70
4. 医療的ケアを必要とする子どもへの自立活動	74
5. 健康保持を指導の基盤として「QOLを豊かにしようとする」 指導のあり方 —キーワードは連携—	78
6. 自立活動における支援機器を活用した事例	83
7. 自立活動における評価の工夫	86
第Ⅳ章 自立活動の現状と今後	91
1. 自立活動の調査研究	92
2. 特別支援教育と自立活動	97

Guidebook
for
Activities to
Promote Independence